




発行責任者
 長崎県病院企業団
 上対馬病院広報部
 広報部長 立花巖
 編集長 永野和寿

基本理念
 地域の健康な生活を
 守る使命の達成のため
 職員ひとりひとりが
 自覚と責任を持ち
 心のふれあいのある
 患者様の側に立った
 医療の実践を行う



ついに電子カルテ運用開始！

メーカー選定から僅か半年でのスピード導入



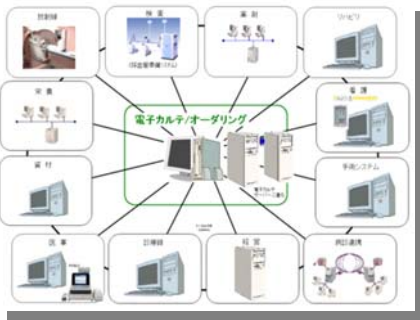
▲CSIさん最終日にて記念撮影

2014.02.14

『電子カルテ』 を導入して

2月1日付で電子カルテの運用が開始されました。1日、2日は週休日でしたので、通常どおりの診療が開始されたのは3日の月曜日からとなりました。

● 待望の新システム構築完成



不慣れさに耐えながら

電子カルテの運用で取扱いが変更となったのは職員の端末機操作だけでなく、受付から会計までの流れや方法もあり、患者様には初めての機械（自動再来受付機）の操作方法や手順などを一人一人に説明をしていくつもりでした。しかしながら初日は操作する側の職員（受付、診察、算定）が操作に慣れていないこともあり、受付では患者様の代理受付をする形で予診室や診察室などに順次送りだし、診察室や算定係ではそれぞれのベンダー専門員を側に張り付けの作業となりました。

1日目は、特別診療も少なく、少ない患者数でのスタートで、何とか患者様の流れが滞ることはなかったものの、算定ではその内容を確認する余裕もなく、診療終了後に1件1件確認作業を行うこととなり、その作業は深夜まで続くことになりました。翌火曜日と翌々日の水曜日は

最も患者様の多い、耳鼻科、眼科の診療があり、どうなることかと1日目で不安をかき立てられる思いで臨みましたが、患者様の我慢もあり、大きな苦情もなく何とか第1週を乗り切ることができました。もちろんソフト、ハード両面において順調ではありませんが、各職員や応援医師などの努力と協力で毎日遅くまでの業務をこなし、第2週には少しばかり笑顔が戻ってきました。

これを執筆しているのは第3週の半ばですが、ある程度患者様には受付機の操作



▲機を飛ばす院長



▲1回目リハーサル開始！



▲真新しい再来機



▲業者さんに見守られながら入力



▲患者1号を案内へ

や診療手順の説明ができるようになったものの、まだまだ残業は続いており、各部署、特に医事係においては運用開始前から多大な業務を課していることを心苦しく思っています。（←次項）

〜長期的に享受する恩恵〜

しかし、このことは一過性のことであり、将来的には業務量を削減することとなるばかりでなく、様々なメリットを呈してくれると考えています。これまでの紙カルテを電子化しない運用としたため、現在も紙カルテを診察室に搬送していますが、徐々にその量は減少し、いずれはほとんどの紙カルテの検索、運搬、収納の手間が無くなるうえ、現在利用しているカル



▲どうにか診察に…



▲勝手が違い焦る！



▲皆さん真剣です！

テ庫の空間も他に活用することができません。煩わしく悩ましかった行方不明カルテの捜索が無くなることもメリットの一つです。また、自動再来受付機に患者様が慣れてくると受付対応回数も減少し、その時間を他の業務に振り替えることができます。診療側では、患者様についての全ての情報がどこからでもアクセスできるため、外来や医局などにも入院患者様の状況把握ができ、リアルタイムに閲覧指示することが出来ます。今後電子カルテの情報量が増えてくると、患者情報の一元管理に



▲無事会計に！



これで合っとるよね～??

より過去情報の検索や紹介状、診断書の再利用など、電子カルテは更にその有用性を発揮してきます。その他のメリットとしては、全ての記録に関して、読めない文字や略号がなくなり、判読に苦労することが無くなります。また、検査結果や紹介状などを紙カルテに貼付する手間も無くなります。

〜更なる病診・病老連携〜

今回の電子カルテ導入は院内での診療にとどまらず、特別養護老人ホームでの診療においてもすでに活躍しています。これまでは一施設50名または30名分のカルテを施設に運び記録し、病院に帰ってから処方箋の発行をしていましたが、導入後はカルテの運搬の必要がな



▲2回目のリハでフローの最終確認

くなり、施設内で処方箋を発行することができるようになりました。

今後、新病院の電子カルテが構築され病院間ネットワークが構成されれば、更に有用な電子カルテとなっていくのではないのでしょうか。ただ電子カルテはメリットばかりあるわけではありませぬ。大きなデメリットとしては、やはりまだ導入時のインシャルコストが高価であることやランニングコストにお金がかかることがあげられます。停電時の対策としてはこれまでもおり無停電装置が活用されますので心配はほぼありませんが、コンピュータは機械ですので、こういったことでシステムダウンするの心配はあります。そのときの対応についてもしっかりとしたマニュアル



▲参加された皆さんお疲れ様でした！

を作成しなければなりません。

私たちが使っていくシステムですから、自分たちが極力操作をしやすいシステムにしていくことや、患者様が面倒だと思うことを少しずつ省いていく運用方法を協議していきながら1年後には患者様にも職員にも満足いくシステムとなるように今後とも職員全員で知恵をしぼりながら完成させていければと望んでいます。

電カル委員会議長

立花 巖



▲今の苦労は必ず地域住民の皆さんのために！

いい病院になったね〜

編集後記

ついに運用が始まった電子カルテシステム。職員の皆様方におかれましては、当システム導入にあたり、本来の業務に加えて、長きに渡り会議や準備に携わって頂きまして心よりお礼申し上げます。

2月1日ですとまず開始はしましたが、年末の実機を設置してからの会議と、2回のリハサルで問題点を全て洗い出し尽せる筈も無く、現状、まだまだ検診・改善・修正すべき箇所が残されています。これから半年〜1年程度かけて、"実戦"でシステムを研磨していく必要があります。電子カルテに触れる職員全員が、ユーザーであるのと同時に有能なアドバイザーとして、「あーしよう、こーしよう」と声を掛け合って頂ければ幸いです。電子カルテはあくまでも効率化のためのツールです。このツールに振り回される事の無いよう十分修練し、上対馬病院の『縁の下の力持ち』として、本来の業務の質に"プラスアルファ"となる事を願っています。

餅好きっ子